

溶接スパッタ（火花）による着衣着火 のヤケドが多発しています！！ ～命にかかわる怪我につながります～



- 災害事例①：**溶接部に近づいて溶接していたところ、スパッタ（火花）が作業着の胸ポケットに入り、インナーに着火。インナーが燃えて、上半身にⅢ度熱傷を負う。
- 災害事例②：**上向き姿勢で溶接をしていたところ、落ちてきたスパッタ（火花）が作業着に付着し着火、インナーに引火し、上半身にⅢ度熱傷を負う。

ここを確認

燃えやすい作業着やインナーを着ている

作業着のポケットがあいている

溶接部に近づいたり、上向き姿勢で溶接している

周囲に人がおらず、一人で溶接している

溶接作業における火傷防止ガイド

溶接作業では、高温のスパッタ（火花）、スラグ、アーク光（紫外線・赤外線）、および加熱された母材が主な火傷の原因となります。これらを防ぐための具体的な対策をまとめました。

1. 服装の選び方

皮膚の露出をなくし、燃えにくい素材で体を覆うことが基本です。

素材：綿100% や 難燃性素材 の作業服を着用してください。

～NG素材：ポリエステル、ナイロンなどの化学繊維は、熱で溶けて皮膚に張り付き、重度の火傷を引き起こすため**厳禁**です～

肌の露出：長袖・長ズボンは必須です。首元にはタオル（綿素材）を巻くか、ハイネックのインナーを着用して、アーク光やスパッタから首を守ります。

着こなし：袖口・ズボンの裾は折り返さないでください（折り返し部分に火花が溜まり、引火の原因になります）。ポケットはフラップ（蓋）付きのものを選び、ボタンを留めます。開いたポケットに火花が入ると危険です。

2. 作業環境の対策

火傷の原因となるスパッタの飛散や、二次災害（火災）を防ぐための環境作りです。

可燃物の除去：周囲に紙、油、布、塗料など燃えやすいものを置かないでください。

衝立（遮光カーテン）の使用：スパッタやアーク光が周囲の人に当たらないよう、不燃性のシートやパーティションで作業エリアを囲います。

水や消火器の準備：万が一衣服に引火した際にすぐに消火できるよう、水バケツや消火器を手元に用意します。

3. 作業中の注意点

ポケットの中身：ライター、マッチ、スマートフォン（リチウムイオン電池）は高温で爆発・発火する恐れがあるため、**絶対にポケットに入れない**でください。

母材の確認：溶接直後の母材（ワーク）は数百度の高温になっています。「黒皮」の状態でも熱い場合があるため、素手で触れないようにし、「高温注意」の表示をすると安全です。

姿勢：スパッタが耳や襟元に入りやすい無理な姿勢での作業は避けます。

4. もし火傷をしてしまったら

どんなに注意していても火傷をしてしまう可能性はゼロではありません。

火を消す：着衣に着火した場合は、水や消火器等ですぐに消火してください。また、着衣に着火した状態では走らず、燃えているところを地面に押し付けて、ゴロゴロ転がってください（ストップ・ドロップ・ロール）。

すぐに冷やす：最低でも15分～30分、水道水（流水）で患部を冷やします。服の上から熱湯がかかった場合などは、無理に服を脱がず、服の上から冷やしてください。

水ぶくれは潰さない：雑菌が入るのを防ぐため、水ぶくれはそのままにします。

病院へ：広範囲の火傷や、衣服が皮膚に張り付いてしまった場合、目に違和感がある場合は、直ちに医師の診察を受けてください。